令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【芝川小学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 算数科での各領域での課題が見えている。各学年課題となる領域は異なる。 <指導上の課題>課題が見えている領域では、重点的に適応問題に取り組む時間を設けているが、知識の定着に結びついていないことが課題である。	⇒	各学年で課題が見えている領域を確認し、児童に実態に応じた指導を行っていく。また、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、反復練習を行っていく。【R6年度さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」に関わる領域において、R5年度の自校の結果より3pt向上させる。】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 算数科での課題が見えている。自身の考えに自信をもてず、他者に伝えることができていない <指導上の課題> 児童一人ひとりの考えを共有したり、伝えたりする機会が多く確保できていないことが課題である。	⇒	既習を生かしながら、自身で解決方法を決め、思考し問題を解く学習をこれまで通り行っていく【R6年度さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」に関わる領域において、R5年度の自校の結果より3pt向上させる。】 協働的な学びを積極的に取り入れ、他者と対話しながら答えを導き出す活動を取り入れる【R6年度さいたま市学習状況調査の「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目において肯定的な意見の割合を90%以上にする。】

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	本校と、埼玉県の結果の比較すると、、知識・技能の観点においては、3.2ポイントの差がみられた。領域別に見ると、A数と計算では、0.3ポイントと差が小さいものの、C変化と関係では8ポイント、Dデータの活用では8.2ポイントの差が見られ、この2領域において課題が見られた。解答類型を見てみると、C変化と関係では、速さの意味は理解しているものの、分速を求める問題に8.1ポイント、Dデータの活用では、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題に15.8ポイントの差が見られた。
思考・判断・表現	本校と、埼玉県の結果の比較から、思考・判断・表現の観点においては、4.6ポイントの差がみられた。領域別にみると、C変化と関係では8ポイント、Dデータの活用では8.2ポイントの差が見られた。この2領域の解答類型を見てみると、C変化と関係では、道のりと時間の関係について考察する問題で8.1ポイント、言葉や数を用いて記述する問題で7.7ポイントの差が見られた。Dデータの活用では、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、記述する問題に5.8ポイント、基準値を超えるかどうか判断する問題に6.4ポイントの差が見られた。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	学年、学級単位で授業研究や、共通の授業準備等してきた。ドリルパークやスタディサプリなどでも適応問題に取り組んできた。A数と計算の領域のポイントが上がってきている。今後は課題に挙がった2領域において重点的に行っていく必要がある。	変更なし
思考・判断・表現	B	協働的な学びを今後も継続していく。自力解決の時間を確保するだけでなく、対話の時間を増やし、なぜそのように考えたのか自分の考えを表現する時間を積極的に確保していく。また、自力で解決するのか、他者と協働で課題を解決するのか選択できるような学習形態も取り入れていく。	変更なし

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(概ね達成)　C 6割未満(あと一歩)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	本校とさいたま市の結果を比較すると、国語では、5,6年生ともにさいたま市の平均を下回った。設問別にみてみると、当該学年で学ぶ漢字の書き取りや、主述の関係を表す問題に課題が見られた。また、算数でも、5,6年生ともにさいたま市の平均を下回った。設問別にみてみると、小数の除法や四則の計算に課題が見られた。
思考・判断・表現	本校とさいたま市の結果を比較すると、国語では、5,6年生ともにさいたま市の平均を下回った。設問別にみてみると、話し手の意図を捉えて助言をすることや登場人物の相互関係や心情について答える問題に課題が見られた。また、算数でも、5,6年生ともにさいたま市の平均を下回った。設問別にみてみると、複合図形の面積を求めることや2つの量の数量関係について答える問題、グラフに表されている事柄を求める問題に課題が見られた。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価(※)	
知識・技能	B	各学年で課題が見えている領域を確認し、児童に実態に応じた指導を行ってきた。学年会で各学級の指導状況や理解度の共有を行ってきた。さらに、校内研修では教科別の研修を行い、職員の技能の向上に努めた。また、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、反復練習を行ってきた。しかしながら、R6年度さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」に関わる領域において、R5年度の自校の結果と3ptの差があった。
思考・判断・表現	B	既習を生かしながら、自身で解決方法を決め、思考し問題を解く学習をこれまで通り行ってきた。このことにより、児童がじっくり考え自身の表現する機会も多くなった。しかしながら、R6年度さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」に関わる領域において、R5年度の自校の結果より1ptの差があった。 協働的な学びを積極的に取り入れ、他者と対話しながら答えを導き出す活動を取り入れた。その結果、R6年度さいたま市学習状況調査の「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目において肯定的な意見の割合を90%以上にすることができた。

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(概ね達成)　C 6割未満(あと一歩)

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	基礎的・基本的な学習内容の定着を目指し、児童生徒が、日々の学習だけでなく、ICT機器を活用し繰り返し反復連練習を行ってきた。しかしながら、国語科、算数科においては、苦手意識がある児童もおり、知識技能の定着とまではいかないのが現状である。全学年において、漢字の知識、数と計算の設問において課題が見られたため、令和7年度は一層の基礎的・基本的な学力の向上を課題とする。国語科では、漢字の書き取りを日ごろから行うことや新出漢字についての指導を行っていき、正しい読み書きができるようにする。また算数科では適応問題を必ず授業時間内に行い、正しい計算方法を身に付け、反復を行っていくことで、知識・技能の定着を目指す。
思考・判断・表現	既習を生かしながら、本時の学習課題を解決していく場面を多く設定した。その結果、学びに向かう主体性が育ってきた。しかしながら、友達の考えを真似るだけの活動になっていることも見受けられた。さらに令和6年度さいたま市学習状況考査では、無回答率が1.8%と高い。自分の考えを書くことや表現することの良さ、友達に認めてもらうことの喜びを改めて実感できるような指導を行っていく。